



国民の森林・国有林

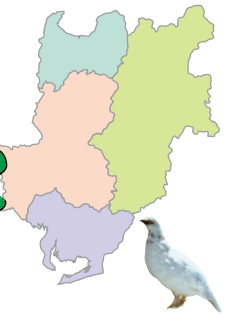
林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



赤沢自然休養林で「ひのき大樹」の説明を聞く参加者

## 木曽川下流域の住民の方々を対象とした 国有林見学会(秋季)を開催

主な項目	○ モバイルカリングによるニホンジカ捕獲の取り組み ..... P2
	○ 各地からのたより ..... P5
	○ シリーズ「森林官等からの便り」 ..... P7
	○ シリーズ「ご当地自慢」 ..... P9
	○ 平成28・29年度 国有林モニターの募集について ..... P10

## モバイルカリングによる

### ニホンジカ捕獲の取り組み

「技術普及課・南信署」鳥獣被害防止対策として昨年度から南信森林管理署管内（伊那市長谷 黒河内・浦国有林）で取り組んでいる「森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業」(※)において、今年度は、中部局管内での初の取り組みとして「モバイルカリング」による捕獲を行いました。

モバイルカリングは、林道沿線において餌付けにより昼間出沒したニホンジカを車両に乗車した射手が銃器で狙撃し捕獲する方法です。

実施場所は、ニホンジカの越冬地で、車両や人の出入りが制限されている箇所、また、ニホンジカの警戒心が低いと想定される箇所などを候補として検討し、浦国有林内で取り組むこととしました。



事前打ち合わせ

まず、十月十五日から餌付けを行いニホンジカの出沒状況を確認し、十一月四日から六日、十日から十二日の計六日間捕獲を行いました。捕獲できたニホンジカは一〇頭でした。捕獲頭数が思いのほか少なかった原因は、餌による誘引効果が低かったことによるものと考えています。



捕獲したニホンジカを計測

今回の取り組みに当たっては、長野県、地元自治体及び猟友会に理解と協力をいただいたほか、銃刀法、道交法等による規制や手続きについて県警本部と地元警察署に相談に乗っていただきました。深く感謝申し上げます。

浦国有林は、南アルプス（仙丈ヶ岳など）の一角を占め、夏場高山帯に生息するニホンジカが三峰川林道まで下って越冬している箇所になっており、夏場に高山帯

への移動が少なくなり、高山植物被害が軽減されることを期待しています。

※鳥獣被害の防止に向けてモデル地区を設定し、地域の農林業関係者と連携を図りながら、シャープシューティング等、様々な技術を効果的に組み合わせた対策を実証するもの。（黒河内国有林では、移動式囲いワナによる捕獲実証にも取り組んでいます。）

## 木曾の国有林見学会

### (秋季)を開催

「木曾森林ふれあい推進センター・名古屋事務所・木曾署」十一月五日、木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会（秋季）」を開催しました。

この催しは、江戸時代から深い繋がりをもち木曾地域と名古屋の関係や、森林・林業について理解を深めてもらうことを目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の熱田白鳥貯木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を実際に見聞きしていただく学習講座で、春に続き今年度二回目となります。

当日は名古屋市民を中心に四〇名の受講者と、ガイド等を行う国有林職員七名により実施しました。



休養林を見学する参加者

この講座に先駆け、十月二十二日に、当見学会の予備知識を深めるために「熱田白鳥の歴史館」において、歴史と木材の利用をテーマとした展示の見学と事前学習会を行いました。また、当日のバスの中では、織田信長が安土城を築城した物語を映画化した「火天の城」が上映され、木曾への想いを膨らませながら木曾ヒノキの聖地へと遡ってまいりました。

赤沢自然休養林には十一時頃到着し、紅葉の時期には少し遅れたものの、秋空の暖かな日差しの中で昼食をとり、森林鉄道で森林と溪流が織り成す景色を眺めながら終点「丸山渡停車場」に移動し、職員のガイドにより、歴史とともに育まれてきた樹齢約三百年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学びました。

参加者からは「楽しかった」「また来てみたい」「チップの道が歩きやすく足

が喜んでいます」との感想が寄せられました。  
 なお、この催しは、木曽復興支援の取組として位置づけており、チャリティーとして参加費用の中に地元の特産品等の購入（お土産代）が含まれています。



ふれセン職員の説明を聞く参加者

今回は、王滝村のお弁当と郷土の食材である「すんき」や「エゴマ」を使ったカレーやお菓子などがお土産として選ばれ、帰りのバス内では「こんなになくさんのお土産うれしい！」といった声が聞かれました。

地域のボランティアと共に！

## 熱田区民祭りに出展！

「名古屋事務所、木曽森林ふれあい推進センター、協力：岐阜署」『街道でつながる ひと・まち・未来』をテーマに、

十月十一日「熱田区民まつり（主催：熱田区役所、区民まつり実行委員会、出展四十九団体）」が中部森林管理局名古屋事務所隣接する白鳥公園において開催され、名古屋事務所からも出展参加するとともに木曽森林ふれあい推進センターやボランティアの協力を得て「熱田白鳥の歴史館」を特別開館しました。  
 東海道や美濃街道をつなぐ交通の要衝として多くの旅人で賑わっていた熱田は街道宿場町としての歴史文化の魅力の発信に取り組まれております。今年の区民祭りでは、東海道から桑名、鳴海、宮、美濃街道から垂井、木曾川上流地域から木曾（広域連合）、加子母、下呂の七つの宿場町（地域）から参加され、楽しさおいしさあふれる賑やかなブース、お獅子の練り歩きや、和太鼓の音が響くステージイベントなど盛りだくさんに催され、多くの市民が訪れました。



ストラップづくりに夢中!

をテーマに、第一会場の出展ブースでは「サクラ」の枝を使ったストラップづくりを、第二会場である「熱田白鳥の歴史館」ではミニイス作りのコーナーを開設し、ボランティアグループ FCA（フォレストサークルあいち）の方々八名の協力を得て実施しました。  
 ブースでは待ち時間が出るほどの盛況で、子供から大人まで総勢約三〇〇名近くがストラップ作りを、歴史館のミニイス作りでは限定四〇名分の整理券が瞬間に無くなりました。参加者らは、完成



まあるい積み木で遊ぶ子供たち



達人（ボランティア）指導のミニイス組立

品の成果に一喜一憂しながらも「ありがとう」「楽しかった」歴史館では「木に囲まれて落ち着く」といった声も聞かれ、木（樹）とのふれあいに堪能しているようでした。  
 今後も国有林の川下の窓口として、地域とのつながりを大切にしつつ情報発信に努めてまいります。

## 森林総合監理士等 連携会議を開催

「技術普及課、東濃署、森林技術・支援センター」十一月五日から六日の二日間、森林総合監理士等連携会議を岐阜県下呂市と中津川市で開催しました。

この会議は、民有林・国有林の森林総合監理士等が一堂に会し、日頃の活動報告や森林施業プランナーとの意見交換を通じた情報の共有、課題となっているニホンジカ被害対策、コンテナ苗などの知見を深めることで今後の活動に生かすことを目的としています。

当日は、中部ブロック准フォレストラー研修並びに技術者育成研修を受講した者など、五県の民有林関係者九名、中部森林管理局職員二八名が参加しました。

一日目の全体会議では、森林総合監理士として活動を進めて行く上で、森林施業プランナーとの連携が重要であることから、岐阜県揖斐郡森林組合の後藤プランナーと南ひだ森林組合の日下部プランナーの二名にプランナーとしての活動を



森林施業プランナーとの意見交換

報告していただいた後、参加者から事前に聞き取った質問事項などについて回答していただく形で意見交換を行いました。

各プランナーからは、森林総合監理士の認知度が低いといった指摘や、国有林が森林所有者を対象として間伐実行中に見学会を開いてはどうかといった提案をいただきました。

二日目は、東濃森林管理署管内湯舟沢国有林において、東濃署総括森林整備官から伐採・造林一貫作業システムや二ホンジカ被害対策の取り組みについて、森林技術・支援センター森林技術普及専門官からコンテナ苗専用植栽器具について、岐阜県森林研究所渡邊専門研究員から岐阜県におけるコンテナ苗研究の取り組みについて説明を受けました。その後、ヒノキコンテナ苗の植栽体験を専用の植栽器具を用いて行いました。

コンテナ苗を初めて見た参加者から

は、「他地域での取組事例は新たな知見が得られ参考になった」との感想がありました。

その後、中津川市加子母の「森の合板協同組合森の合板工場」において、佐藤理事の案内により工場内を見学し、合板ができるまでの工程について、併せて原木の入荷状況等について説明を受けました。



コンテナ苗植栽地での集合写真

二日間を通じ、参加した者同士の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となりました。

### 林政記者クラブ国有林視察

〔総務課広報〕十一月十一日から十二日

の両日、林政記者クラブ（中部森林管理

局管内加盟社）の国有林視察を、愛知森林管理事務所管内において実施しました。

当日は、林政記者クラブ四社から四名が参加され、森林管理局からは次長、総務企画部長、名古屋事務所副所長、広報主任官が同行しました。

一日目は、愛知県豊田市稲武町において、次長の挨拶の後、愛知所長から愛知森林管理事務所の平成二十七年年度の取組や事業概要等について説明しました。

午後からは、所長、森林技術指導官、総括森林整備官の案内により段戸国有林に移動し、生産性向上プログラムの事業地を視察しました。現地は、ヒノキ列状間伐箇所で、地元の大学や県等と協力して生産性向上の実践に努めていることを説明しました。

続いて、伐採造林一貫作業システム実行箇所を視察しました。高性能林業機械を活用した伐倒作業の実演では、オペレーター一人で伐倒から枝払い、玉切り、



コンテナ苗の説明

集積まで行う様子に感嘆の声が上がっていました。また、森林技術指導官からヒノキコンテナ苗は、従来の普通苗と比較して、「植栽時期を選ばない」「植栽が容易」等の特徴を有していることなどを説明しました。続いて、ヒノキ天然更新試験地に移動し、ヒノキの天然稚樹が密生し生長している状況を視察しました。



ヒノキ天然更新試験地を視察

二日目は、調整官、森林技術指導官の案内により愛知県新城市の国道一五一号線沿いにある「道の駅もつくる新城」を視察しました。この道の駅は、「木材・「来る」の意味で、温もりを感じる木材をふんだんに使用した建物です。

次に日本木槽木管（株）新城工場を訪ね、工場長の案内により、木槽の構造や特徴、使用木材による違い等について説明していただきました。

続いて、愛知県設楽町が公営住宅等整



日本木槽木管 (株) の木槽を視察

備事業として建設中の住宅建設現場を、設楽町役場産業課次長の案内により視察しました。当住宅は木造二階建ての集合住宅で設楽産材を構造材や内装材等に積極的に使用しており、設楽町が地元林業の活性化のために地元産材の利用を強力に推進していることが分かりました。

各視察箇所では、林政記者クラブの皆さんから多くの質問もいただき、また、情報も共有できたことで有意義な視察となりました。終わりに、総務企画部長から林政記者クラブの皆さんに対し、視察参加のお礼とともに地域林業の活性化のために引き続き協力をいただくことをお願いして散会となりました。

今後このような機会を設け、中部森林管理局の取組を紹介し、理解を得るため効果的な情報発信に努めていきたいと考えています。

## 台湾中国文化大学と 台湾林務局が視察

「名古屋事務所」十月二十九日、台湾の中国文化大学景観学科教授と研究生、行政院農業委員会林務局の方々が「熱田白鳥の歴史館」を視察されました。

台湾では、日本統治時代の製材所など林業施設を文化遺産「林業文化園区」として整備が進められており、計画を進める上で日本の森林博物館などの展示施設を参考にすることを目的に来日されました。

最初に、日本の森林の状況、木造化の取組、中部森林管理局の業務内容、白鳥貯木場四百年の歴史についてパワーポイントや資料を用いて説明しました。その後、白鳥公園の一部として残された貯木場の遺構を案内しました。一部通訳を介しての説明でしたが、日本の林業については、主な植栽樹種、木材自給率、木材流通など、歴史館については、維持管



日本の森林・林業と中部局の業務概要を説明



昭和初期の写真と比較

理、運営体制、設置の経緯、普及教育の効果などについて熱心に質問され予定された滞在時間をオーバーし、次の視察地である「青森森林博物館」へ向かわれました。

後日、「貴重な経験が身に付いた、今後、この経験は「林業文化園区」及び台湾林業展示に関する事業に必ず役立つ。是非、台湾の林業文化園区へいらしてご案内させていただきたい。」とのメッセージが寄せられました。



## 新任労働基準監督官の 林業現場現地研修を受け入れ

「東濃署」岐阜労働局から本年度に新規採用した労働基準監督官の実地研修の依頼を受け、十一月四日に三名の新任労働基準監督官を生産事業地及び治山工事現場に案内しました。

午前中は、湯舟沢国有林で実行中の生

産事業地で伐採、造材、搬出までの一連の作業を現場担当者から説明しました。現場ではチェーンソーによる伐倒作業を見学し、実際の伐根を使つての説明や最新の高性能林業機械（フェラーバンチャ、プロセッサ、フォワード）を使つての集造材を見学しました。



伐採方法を伐根を使って説明

初めて林業の現場を見た新任監督官は、伐倒の迫力に驚き、また、急峻な現場で最新の林業機械が稼働している状況に興味深く見入っていました。

一連の作業を見学した後、「高性能林業機械を使用するようになって集造材での怪我は大幅に減った。現在一番危ない作業は伐倒作業である」との説明に、しきりに頷いていました。

午後からは治山現場の見学を行いました。

た。現地は中津川上流部の復旧治山工事現場で木製土留工を実施している箇所です。まず当署職員から治山事業についての説明した後、現場代理人から工事内容の説明を行い現地作業を見学しました。



治山事業の説明

現地にはケールブルクレーンが設置しており、搬器が実際に動くところも見ていただきました。新任監督官からは「大変参考になった」との感想があり、将来の監督業務に役立つ研修となったものと考えています。

### 漁民の森林づくり活動 (漁業関係者による 森林整備を実施)

〔愛知所〕十月六日、設楽町田峰地籍にある段戸国有林において「漁民の森林づくり活動」を実施しました。

この活動は良質なアサリ稚貝をはじめ

として豊富な漁場資源に恵まれた三河湾(漁場)の環境を守り将来に向けて豊かな水産資源を維持するため、蒲郡市を中心とした漁業関係者が参集して、豊川・矢作川両水系の源流域の森林整備を継続的に行っているもので今年で十四年目となります。

当日は、漁業関係者の三谷漁協、蒲郡漁協青年部及び三谷水産高校海洋資源科一年生、連携団体の愛知県東三河農林事務所、蒲郡市及びNPO法人穂の国森づくりの会の関係者と当所職員約百名の参加のもと、この活動がスタートした平成十四年にブナなどの広葉樹を植栽した森林において、植栽木の生長を妨げるシロモジ等を除伐する作業を実施しました。



除伐作業を行う参加者

参加者からは、「除伐作業は初めてだが、森林が海につながっていると思うとともに身近に感じる」「森の環境が良くなることで海の環境が良くなればうれしい」との感想をいただき、来年以降も豊かな森林、豊かな海づくりのために、本活動を実施していくことを確認しまし

た。当所としても、「海」と「森」の関係者が密接な関係を持った森林整備が今後も継続できるように取り組むとともに、来年新たな祝日となる「山の日」の意義である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」を踏まえ、各種の取り組みを通じて国民参加の森林整備の必要性等について情報発信に努めていくこととしています。

### 「森のようちえん」活動を

#### 目指して

〔中信署〕森のようちえんとは、森などの自然豊かな環境の中で、未就学の三〜六歳児の子どもを保育・教育するスタイルの名称で、幼児期の自然体験活動や環境教育ともいえるものです。

中信森林管理署では十一月五日と十日、隣接する松本市堀米保育園の年中児二七名と年少児二九名を対象に森林教室を行いました。

年中児に対しては、署オリジナルの「お山のニコニコさん」の紙芝居を上映しました。紙芝居は山の木を伐り過ぎてしまい災害が発生した山を復元させるには何が必要かを問う内容です。森林の大切さを学んだ後は、模造紙に描いた山に木や自分たちで描いた動物の絵を貼り、森林作りの疑似体験をしました。

年少児に対しては、松ぼっくりを使った森林ふれあい体験を行いました。「?ボックス」の中に手を入れて、五感のひ



模造紙に森林作り

とつである触覚を頼りに中に入っているもの(松ぼっくり)を当てるゲームや、二班に分かれて松ぼっくりの玉入れゲームをしました。

今年から森林教室が保育園の年間行事となったことから、春には年長児を対象とした森林教室も行いました。園児たちは各年齢に合った森林教室のプログラムを体験したことで、感性を研ぎ澄まし、



松ぼっくりを使って森林ふれあい体験

遊びの中で創造的な自発性が発揮でき、自然への親近感や森林の大切さを学ぶことができたものと考えています。

### 新城市内小学校を対象に

#### 「森林教室」

「愛知所」十月九日、愛知森林管理事務所会議室において、新城市立の小学校六校の一、二年生児童と先生五〇名を対象に、森林教室を行いました。

今回の森林教室は、新城市内の小学校から社会見学の一環として依頼を受けたもので、鉛筆工場見学の後に森林教室を行いました。

内容は森林のはたらきを説明する紙芝居と木工クラフトづくりを行いました。紙芝居では職員の話に興味深く聴くとともに、「室内のどこに木が使われていますか?」などの木材製品に関する質問に



紙芝居の上演

対し、児童の皆さんが一斉に手を上げる様子が見られました。松ぼっくりや小枝などを利用して自由に作品を作成する木工クラフトでも子供ながらの発想の面白い思いに楽しく作品を制作していました。

また、十月十五日に新城市立庭野小学校の一、二年生児童と先生一名を対象に森林教室を行いました。愛知所は同校の学区内であり、例年開催しています。

森林教室の内容は同様のものを行い、こちらも少人数ではありますが、児童、先生共々とても楽しそうに森林教室を受けていました。



木工クラフト制作中

各小学校は共に山間部にありますが、日頃は森林に触れる機会も少なく、これを機に森林や木工品に興味を持ってもらえれば幸いです。

### シリーズ

#### 「森林官等からの便り」



#### 「木曽署 瀬戸川森林事務所」

森林官補 長岡 達己

僭越ながら今回は本年度より配置された森林官補(各局数名の希少種)が執筆させていただきました。当事務所は長野県木曾郡王滝村に所在し、瀬戸川管内と私が担当する水ヶ瀬管内の国有林を管理しています。南滝越森林事務所、王滝治山事業所と一つ屋根の下、森林技術員を含め九名と近年では大所帯です。

王滝村は御嶽山(標高三、〇六七メートル)の麓にあり、長らく御嶽教の巡礼者を迎えてきました。また昭和三十六年完成の牧尾ダムは愛知県の自動車工場や製鉄所に欠かせない水瓶で、そのダムを満たす水を育むのが村の九七%を占める森林です。その森林の八七%は国有林で、様々



小秀山から望む御嶽山

に活用されています。

先述の御嶽山は登山者からも愛されており、国有林も関係者と協力し清掃登山を続けてきましたが、残念ながら昨年噴火で現在は頂上まで登れません。しかし今夏、国有林と関係者で入山可能な範囲にある老朽化した木道を再整備に向けて撤去しました。岐阜県境の小秀山(標高一、九八二メートル)は、二百名山の一つで、頂上は三六〇度の大パノラマ。昼は御嶽、中央・南アルプスを一望でき、夜は天の川と名古屋の夜景が見られます。その他、国有林の四〇〇キロ超におよぶ林道でのマウンテンバイクをはじめとする各種レースがここ一〇年程に渡り開催され千人強を集客しています。さらに瀬戸川管内の風致探勝林では大樹の天然林を散策できます。レースはハードルが高いですが、小秀山や探勝林は村等のツアーもあるので訪れてみてください。現在、入



ウグイ川の清流

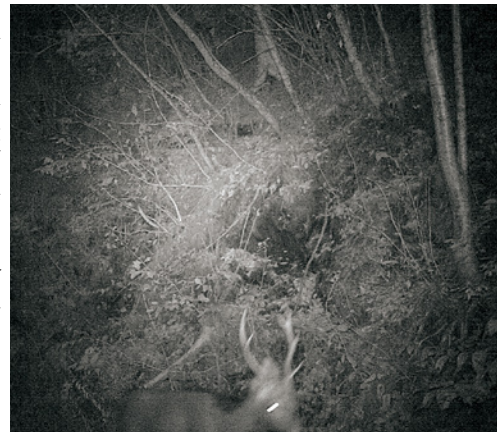


ササをかき分けて天然更新の状況調査

山規制中の御嶽山に代わる観光資源を村職員や地域おこし協力隊とともに国有林内で探索中です。手探り段階ですが、森林鉄道の遺構もツアーで人気ですし、王滝川に合流する清流ウグイ川は散策に最高で、今後の活用が楽しみです。なお国有林と無関係ですが某所の猪豚料理が好評です。訪問の折には是非。(この他スキー場等についてご当地自慢「二二号」掲載)

管内の森林整備については、木曾悠久の森(中部の森林一三二号参照)の方針に基づき、取組区域は人の手が加わる前の自然植生へ数百年かけ戻していく、例えば人工林は間伐を繰り返して、稚樹の発生を促すことで天然更新を図り、天然林へと気の長い取組が始まるところです。

天然林といっても山を見ていると、木曾ヒノキやサワラ等針葉樹中心の場所、ミズナラやカンバ等広葉樹中心の場所、両者が混ざる場所と植生は一様でありません。これまで求められてきた木曾ヒノ



センサーカメラで撮影されたニホンジカ

キ材や人工林の特に高齢級・高品質なヒノキ材についても引き続き生産していくことが我が国の文化を守るために必要で、それらに必要な森林整備は区域外で継続し、区域内ではヒノキにこだわらず個々の場所に成立する植生で山を作っていく、という二つの視点が必要だと感じます。と、文で書くとは話は簡単そうですが、はてさてこの山はどうしたものか、という場所はそれぞれにあり、山を歩いては事務所の皆で頭を捻り来年度と次期五ヶ年の計画(場合によってより先の人へ引き継ぐ話も?)を考える日々です。

そして森林整備を進めるうえで全国的に悩ましいニホンジカですが、周辺町村での駆除から逃れてきたのか、村でも観察されはじめました。私自身、狩猟免許を取得し猟友会に加入したところで飛んで火に入るなんとやら...と言える腕はないので、地元と連携しながら推移を見て

対策を考えていこう、というところからです。

## 人のうごき

### 中部森林管理局人事

十二月二十八日付

▽職務復帰(育児休業終了)(東信署森林官(真田担当区)) 百瀬 健

十一月三十日付

▽退職(南信署上村森林事務所行政専門員) 大澤真人

十二月一日付

▽東濃森林管理署付(飛騨署地域統括森林官(神岡・双六担当区)) 加地英孝

▽飛騨森林管理署地域統括森林官(神岡・双六担当区)(岐阜署統括地域林政調整官) 影山成生

▽岐阜森林管理署統括地域林政調整官(南信署森林技術指導官) 松嶋克彰

▽南信森林管理署森林技術指導官(木曾署森林技術指導官) 谷澤功志

▽木曾森林管理署森林技術指導官(技術普及課企画官(民有林連携)) 北村 大

▽森林整備部技術普及課企画官(民有林連携)(北信署統括森林整備官) 大野田 学

▽北信森林管理署統括森林整備官(富山署統括森林整備官) 軒端信司

▽富山森林管理署統括森林整備官(南木曾支署主任事務管理官) 山本通明

▽南木曾支署主任事務管理官(東信署主任森林整備官(経常担当)) 可知英樹

▽東信森林管理署主任森林整備官(経営担当)(南木曾支署主任森林整備官(資源活用担当)) 坂口博紀

▽木曾森林管理署南木曾支署主任森林整備官(資源活用担当)(保全課森林利用係長) 安田智宏

▽計画保全課保全課森林利用係長(技術普及課緑の普及係長) 大西沙織

▽飛騨森林管理署森林整備官(森林育成・資源活用担当)(飛騨署森林整備官(資源活用担当)) 田中真二

▽飛騨森林管理署森林整備官(資源活用担当)(南木曾支署森林整備官(森林育成担当)) 川久保 仁

▽木曾森林管理署南木曾支署森林整備官(森林育成担当)(南木曾支署森林官(須原担当区)) 南坂博和

▽木曾森林管理署南木曾支署森林官(須原担当区)(中信署森林官(有明担当区)) 林 英樹

▽中信森林管理署森林官(有明担当区)(中信署森林整備官(ふれあい担当)) 吉村曉美

## 行事・会議等の予定

### ◎国有林モニター会議

1月21日 中部局

### ◎事業担当課長会議

1月21日～22日 林野庁





長野県第三の都市である現在の**上田市**は、平成十八年に、**旧上田市**、**旧小県郡丸子町・真田町・武石村**が合併し誕生しました。千曲川右岸の旧市街地は、戦国時代に**真田氏**が築いた**上田城**を中心とする城下町で、市街地から北に向かうと**真田氏**発祥の地とされる**真田の里**(**旧真田町**)となります。

平成二十八年は、ここ**信州上田**が舞台となる大河ドラマ**真田信繁**(**幸村**)が主人公となる「**真田丸**」の放送が始まることから地元は活気付いています。今回のご当地自慢は、**真田氏**にゆかりの地をご紹介します。

◆**上田城(城跡公園)**

千曲川の分流、**尼ヶ淵**に面していたので、当時は「**尼ヶ淵城**」とも呼ばれ、甲斐**武田氏**の旧臣であった**真田昌幸**(**信繁**の父)が一五八三年に築城したものです。

**昌幸**がこの**上田城**を舞台に二度も**徳川軍**を撃退した**上田合戦**は有名です。しかし、**関ヶ原の合戦**において**真田氏**が属し



上田城

た西軍が負けたため**上田城**は破却され、江戸時代には**上田藩**の藩庁が置かれました。現在は**旧二の丸**が**上田城跡公園**となっており、毎年桜の時期になると多くの市民や観光客で賑わう見所となっています。この城跡公園内には**真田丸**の放送に伴う「**大河ドラマ館**」がオープンする予定となっています。

◆**真田氏本城跡**

**旧真田町**にある山城の跡であり、**真田幸隆**により築城されたと伝えられ、**上田城**が築城されるまで**真田氏**の本城であったと考えられています。この城は、単体の山城ではなく**真田盆地**を取り囲む山城群の司令部的存在であったともいわれています。

◆**山家神社**

本宮が**真田町長地区**、奥宮は**四阿山**(**あずまやさん**、標高二、三五四m、日本百名山)山頂にあり、古くからこの地域

の守り神として祀られ、千年以上の歴史をもつ神社です。  
平安時代に編纂された**三大格式**(**律令の細則**)の一つである**延喜式**(**えんぎしき**)の**神名帳**に名を連ねるほど格式の高い神社です。



山家神社

**真田氏**も初代**幸隆**の代より氏神として崇めてきました。**真田信綱**(**幸隆**長男・**昌幸**の文書等は**社宝**となっています)。

◆**角間温泉(角間溪谷)**

**角間温泉**は**上田市真田町角間川**上流、**日本森林浴の森百選**の一つである**角間溪谷**の中に位置し、周囲は**角間山**国有林で、切り立った**火山岩**の断崖絶壁がそそり立ち、特に秋は**溪谷**全体が赤く染まり、**信州**有数の**紅葉**の名所でもありま

す。お湯は、**鉄分**を含んだ**炭酸泉**で地表に



角間温泉と溪谷の紅葉(下)

湧出した時点では無色ですが、空気に触れると**鉄分**が酸化し**茶褐色**となつてきます。

ここは、**真田一族**の居城の近くであったことから、**真田家**の隠し湯ともいわれ、**溪谷**の双壁は**真田十勇士**の一人、**忍者**「**猿飛佐助**」の修行の場とも言われています。

◆**真田氏歴史館**

**真田幸隆**をはじめとする**真田一族**の歴史が豊富な資料で紹介されています。**館内**の展示は、年代に沿って配置されており、**真田氏**の活躍の歴史がわかりやすく理解することができます。

○**歴史館所在地**

長野県**上田市真田町本原二九八四番地**

○**アクセス**

**JR上田駅**・しなの鉄道**上田駅**よりバス利用約**三十五分**  
自動車、**上信越道上田・菅平インターチェンジ**より**国道一四四号線**で**四・五km**(約**十五分**)

**大河ドラマ**の放送を機に是非一度**真田の里**を訪れてみてはいかがでしょうか。

## 平成28・29年度 国有林モニターの募集について

総務企画部 企画調整課

中部森林管理局では、「国有林モニター」を下記のとおり募集します。

この募集は、中部森林管理局が管轄する富山県・長野県・岐阜県・愛知県にお住まいの皆様が国有林が果たしているいろいろな役割や、森林の整備、木材の供給、ふれあいの場の提供等の状況をご理解いただくとともに、国有林に対するご意見等を直接伺い、今後の管理経営に役立てていく取組の一環として行うものです。

### 記

- 1 募集人員 36名
- 2 モニターを依頼する期間 平成28年4月1日から平成30年3月31日までの2年間
- 3 依頼内容
  - ①アンケート調査への回答
  - ②国有林の管理経営に関するご意見、ご要望等の提出
  - ③モニター会議、現地視察への出席
- 4 応募資格  
中部森林管理局が管轄する富山県・長野県・岐阜県・愛知県にお住まいで国有林に関心をお持ちの成人の方。  
ただし次の方は除きます。  
①国会・地方議会の議員 ②地方公共団体の長 ③常勤の国家公務員
- 5 応募方法等  
中部森林管理局のホームページよりご応募ください。  
郵便はがき、FAXでも応募できますので、次の応募記載事項を記し、「中部森林管理局 企画調整課（国有林モニター担当）」宛にご送付下さい。  
**【応募記載事項】**
  - ①氏名（フリガナ） ②性別 ③生年月日 ④年齢 ⑤郵便番号 ⑥住所
  - ⑦職業 ⑧電話番号（日中に連絡が取れるもの） ⑨メールアドレス
  - ⑩国有林モニターの応募をどのようにして知りましたか？
  - ⑪国有林モニターに応募した理由（具体的に）**【応募締め切り】**  
平成28年1月15日（金）
  - ・結果は平成28年3月上旬頃までに、依頼状の発送をもってお知らせします。
  - ・応募者多数の場合は抽選により選定をさせていただきます。
- 6 応募、問合せ先  
〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5  
中部森林管理局 総務企画部 企画調整課（国有林モニター担当）  
TEL：050-3161-8682、026-236-2583 FAX：026-236-2657
- 7 その他
  - ・提出いただいたアンケートの回答、意見、提言は、匿名にて公表する場合があります。
  - ・提出された意見や要望に、個別に回答することはしません。

※皆様の個人情報、国有林モニターの目的以外には使用しません。